

【1-A】道泉連区 社会条件

【連区の概要】

道泉連区は瀬戸市中央部のやや西寄りに位置する。連区内には古くからのやきもの産業関連施設が点在している。連区南部を国道 155 号および名鉄瀬戸線が通過しており、連区内には尾張瀬戸駅が存在している。駅の西部には商店街が存在する。

道泉連区



【人口および世帯数】

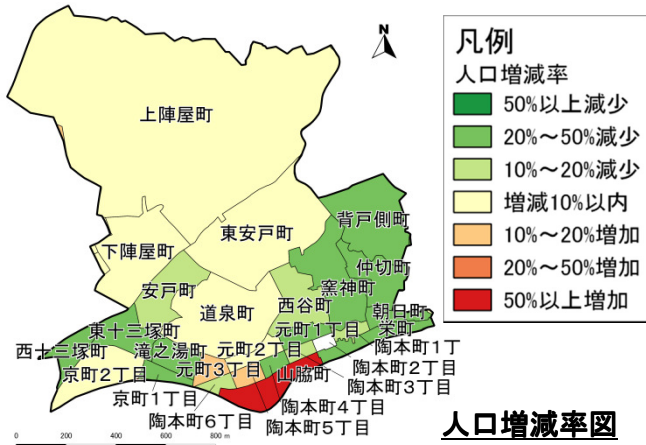
平成 12 年から平成 22 年までの 10 年間で、道泉連区全体の人口は 4,869 人から 4,292 人と 11.9%減少している。連区内では、山脇町、元町 3 丁目、陶本町 5 丁目では人口が増加しているものの、それ以外の町丁目では減少傾向である。また世帯数は 1,890 世帯から 1,774 世帯と 6.1%減少している。

道泉連区全体の 65 歳以上人口比率が 26.0%と、瀬戸市全体の 23.3%と比べて 2.7%高い。連区内では山脇町、陶本町 5 丁目、下陣屋町、東安戸町以外は 65 歳以上人口比率が比較的高い。

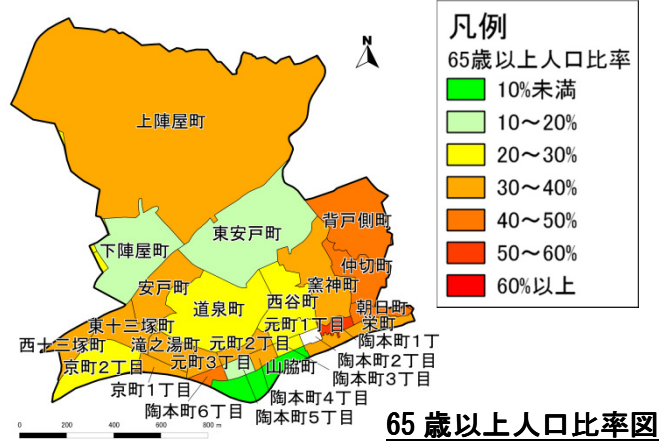
階層別人口構成

年代	人口	構成比
0～14歳	507人	11.9%
15～64歳	2,636人	62.1%
65歳以上	1,104人	26.0%
区分不明	45人	-
連区内人口	4,292人	

※平成22年国勢調査結果より



人口増減率図



65歳以上人口比率図

※陶本町 2 丁目の人口は 0 人である。

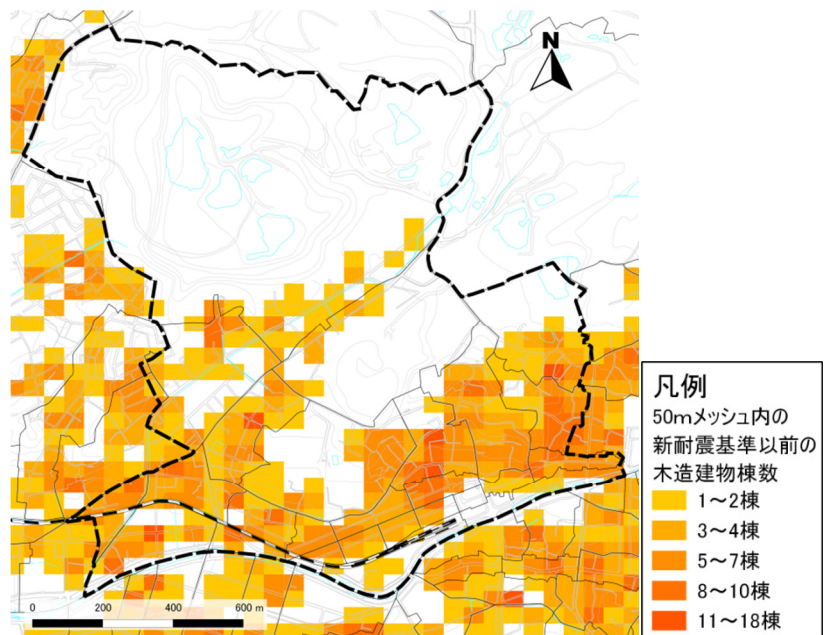
【建物】

道泉連区の木造建物および非木造建物の割合は、木造建物 70.8%、非木造建物 29.2%である。新耐震基準以前（昭和 55 年以前）の木造建物は全建物の 49.6%であり、瀬戸市全体の 34.3%と比べて高く、特に尾張瀬戸駅の北東部（西谷町、朝日町、仲切町の南部）に集中している。

木造・非木造構成

	建築年	棟数	構成比
木造	S35年以前	683棟	35.0%
	S36～55年	284棟	14.6%
	S56年以降	413棟	21.2%
	計	1,380棟	70.8%
非木造	S45年以前	222棟	11.4%
	S46～55年	113棟	5.8%
	S56年以降	235棟	12.1%
	計	570棟	29.2%
	連区内棟数	1,950棟	100.0%

※平成23年度都市計画基礎調査
建物利用現況図をもとに集計



新耐震基準以前の木造建物分布図

【1-B】道泉連区 水害および土砂災害

- 過去に水害が発生した箇所がある。また、連区北西部および東部に土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が存在する。
- 連区北東部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。

【水害および土砂災害箇所】

道泉連区では、浸水想定区域については設定されていないが、滝之湯町および京町1丁目では、平成12年の東海豪雨時に浸水被害が発生している。また、大正14年にも大規模な水害が発生している。

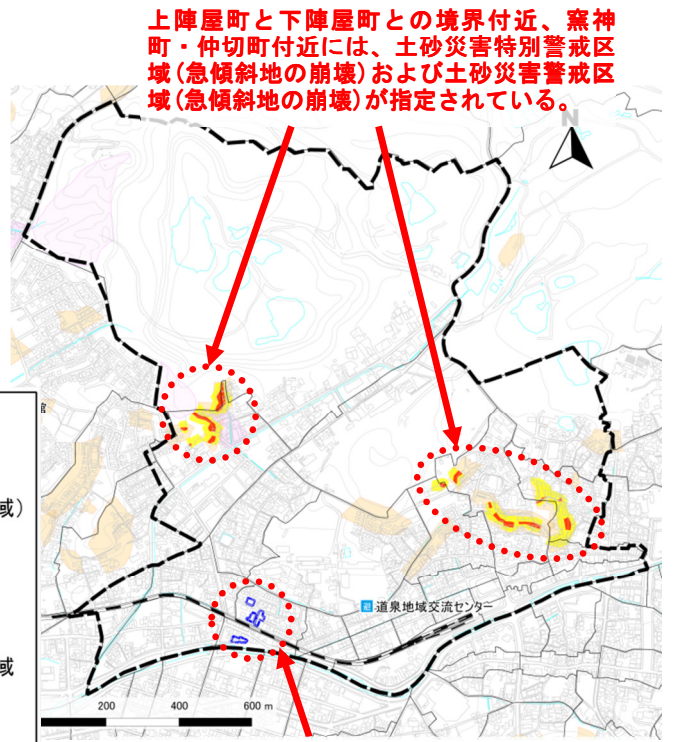
また、上陣屋町と下陣屋町の境界付近および窯神町・仲切町付近では土砂災害特別警戒区域(急傾斜地の崩壊)および土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊)が指定されている箇所があり、対策が必要である。

その他、名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅北側、道泉町から背戸側町にかけて急傾斜地崩壊危険箇所が点在している。

土砂災害警戒区域内にある建物棟数

急傾斜地の崩壊	91棟
特別警戒区域	23棟
警戒区域	68棟

凡例	
	風水害避難所
土砂災害情報	
	急傾斜地の崩壊(特別警戒区域)
	土石流(特別警戒区域)
	急傾斜地の崩壊(警戒区域)
	土石流(警戒区域)
	土石流危険溪流
	土石流危険溪流による危険区域
	急傾斜地崩壊危険箇所
	地すべり危険箇所
	既往水害(東海豪雨)



上陣屋町と下陣屋町との境界付近、窯神町・仲切町付近には、土砂災害特別警戒区域(急傾斜地の崩壊)および土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊)が指定されている。

滝之湯町および京町1丁目では、東海豪雨時に水害が発生している。

水害・土砂災害危険度図

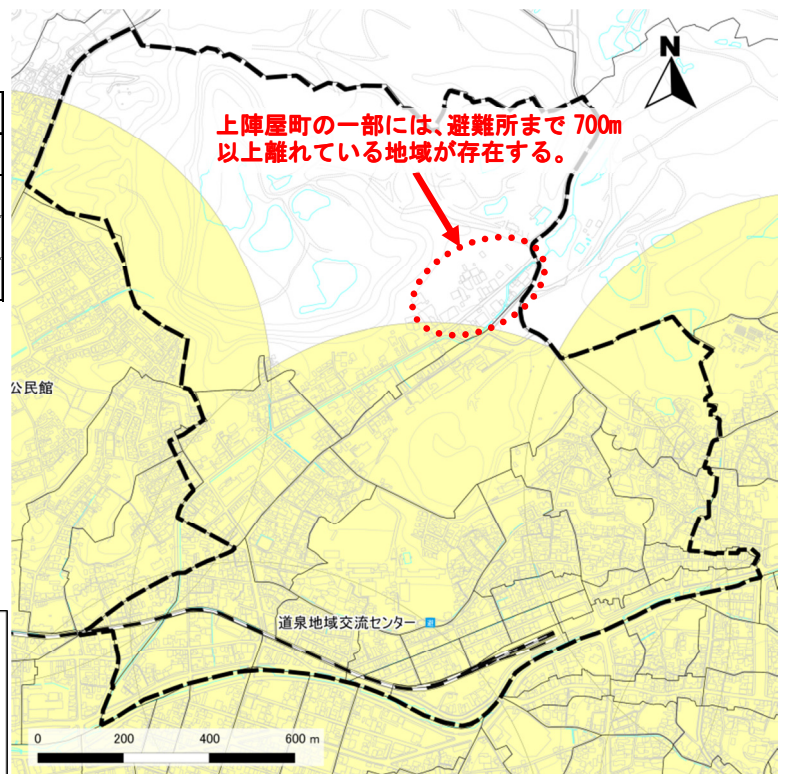
【風水害時の避難所および緊急避難場所】

道泉連区では道泉地域交流センターが風水害時の避難所・緊急避難場所として指定されている。近隣連区の避難所も含めると、窯業関連の工場が立地する上陣屋町の東部を除き、700m以内に避難所が存在する。

風水害時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所・避難所	収容定員(目安)		
	長期	初期	直後
道泉地域交流センター	45人	90人	145人
深川公民館【深川連区】	40人	85人	135人
水南公民館【水南連区】	40人	75人	125人

※地域防災計画より



上陣屋町の一部には、避難所まで700m以上離れている地域が存在する。

凡例	
	避難所・緊急避難場所(風水害)
	緊急避難場所兼避難所
	避難所等からの対象範囲(同心円)
	避難所から700mの範囲

風水害時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図

【1-C】道泉連区 地震災害

- 連区南部の市街地を中心に、耐震性の低い建物が倒壊する割合が高い。
- 連区の全域にて、近隣に地震時の避難所が存在する。

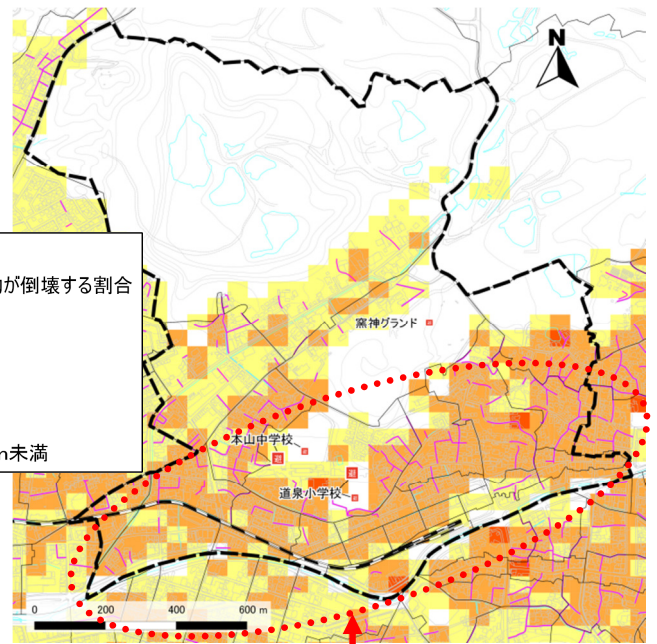
【建物被害および液状化】

(1) 建物被害について

道泉連区はほぼ全域にて、耐震性の低い建物が倒壊する危険性がある。このうち、連区南部の瀬戸川沿いの市街地では、耐震性の低い建物が倒壊する割合がやや高く、幅員が狭小な道路が多いため、道路閉塞や火災延焼の危険度が高い。

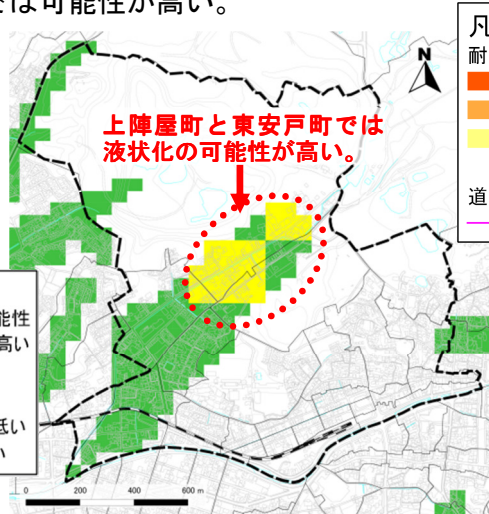
(2) 液状化について

液状化の可能性がある地域は、主に陣屋川で形成された沖積低地（谷底平野）に分布し、上陣屋町と東安戸町では可能性が高い。



耐震性の低い建物が倒壊する割合が高い。

建物(木造および非木造)倒壊危険度図



液状化危険度図

【地震時の避難所および緊急避難場所】

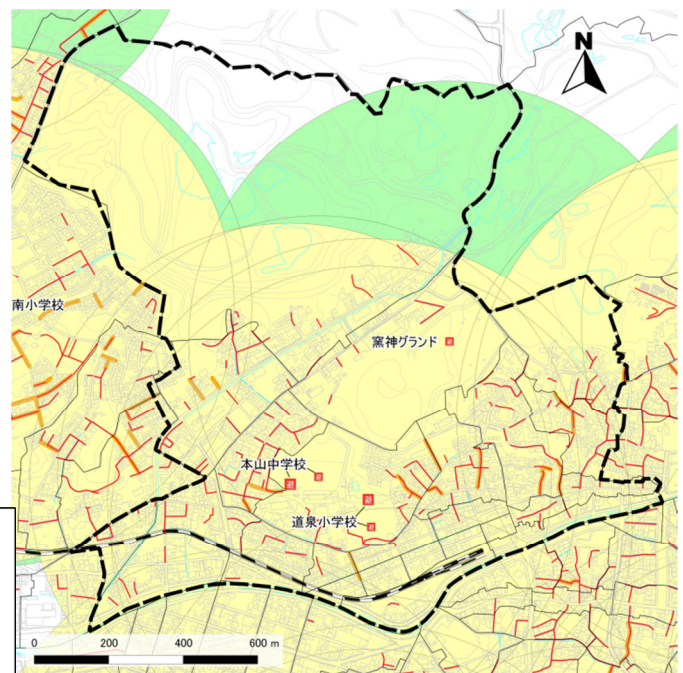
道泉連区では、地震時の緊急避難場所として南神ランド、道泉小学校、本山中学校の3ヶ所、避難所として道泉小学校、本山中学校の2ヶ所が指定されている。近隣連区の避難所も含め、連区全域において700m以内に避難所もしくは緊急避難場所が存在する。

避難所および緊急避難場所へは狭い道や傾斜があるとところが多いため、災害後の状況によっては、円滑な避難が阻害される可能性がある。

地震時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所	避難所	収容定員(目安)		
		長期	初期	直後
南神ランド(ランド)	道泉小学校	100人	200人	320人
道泉小学校(運動場)	本山中学校	265人	535人	870人
本山中学校(運動場)				

※地域防災計画より



地震時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図

